

JSPA
指導者検定会
インストラクター/ガイド
検定課目ガイドライン

-- 2023 年度版 --

一般社団法人
日本セーフティパドリング協会
Japan Safe Paddling Association

指導者検定会・課目ガイドライン

このガイドラインは日本セーフティパドルリング協会・一般会員規定及び検定会規定に基づき、指導者育成を目的にこれを定める。以下の内容を変更する場合は、教育普及委員会の承認を得、理事会に報告しなければならない。このガイドラインは会員がいつでも入手可能なものである。

- 受験資格 1
- 受験料 1
- ベーシック課程：カヤック（シー、シットオン、レクリエーショナル、リバー）
オープンカヌー、SUP/スタンドアップパドルボード 3
- アドバンスト課程・知識：共通課目 6
- アドバンスト課程・技術：
カヤック（シー、シットオン、レクリエーショナル、リバー）
オープンカヌー、SUP/スタンドアップパドルボード 8
- ガイド課程（付帯資格）：アドバンスト・リバーガイド 16
- ガイド課程（付帯資格）：アドバンスト・シーガイド 19
- 評価の主観的目安 22

【資格一覧と必要単位数】

認定資格名	種目	ベーシック課程		アドバンスト課程		ガイド課程		合計単位数
		知識 共通	技術 各艇種	知識 共通	技術 各艇種	リバー課目	シー課目	
JSPA ベーシックインストラクター	シーカヤック	3	3					6
	シットオントップカヤック	3	3					6
	レクリエーショナルカヤック	3	3					6
	リバーカヤック	3	3					6
	カヌー	3	3					6
	SUP	3	3					6
JSPA アドバンストインストラクター	シーカヤック			6	6			12
	シットオントップカヤック			6	6			12
	レクリエーショナルカヤック			6	6			12
	リバーカヤック			6	6			12
	カヌー			6	6			12
	SUP			6	6			12
JSPA アドバンストガイド	リバー			6	6	9		21
	シー			6	6		9	21

JSPA 指導者検定会・インストラクター/ガイド

検定課目ガイドライン

-- 2020年度版 --

2016年4月1日発行

2017年2月22日改正

2018年1月16日改正

2018年9月16日改正

2020年4月1日改正

2023年4月1日改正

発行：日本セーフティパドルリング協会

編集：JSPA 教育普及委員会

■受験資格

1. 全課程共通

- 1) 受験する年の4月1日現在、18歳以上の者：「<検定会規定> 3. 受験申請(1)」による
- 2) 下記の指定講習修了者(講習修了書のコピーを提出)

【心肺蘇生法講習】下記いずれかの講習：受験日より遡り3年以内の講習修了

- JSPA-CPR 講習
- 消防局：普通救命講習
- 日本赤十字社：救急法・基礎講習
- MFA ジャパン：ケアプラス
- 他、匹敵する講習、資格(要問合せ)

2. アドバンスト課程・知識課目、技術課目

1) 初回の受験者

JSPA セーフティ&レスキュープログラム(SRP)講習修了(修了証のコピーを提出)

2) 2回目以降の受験者

JSPA 一般会員もしくは準会員(会員証のコピーを提出)

3. ガイド課程(付帯資格)

アドバンストインストラクターを所持している一般会員(会員証のコピーを提出)

■受験に関わる費用

1. 受験料：受験前に納付を済ませる事

検定内容	単価	数量	課程合計金額
ベーシック課程	30,000 円/2日間	6 単位	30,000 円/課程
アドバンスト課程知識課目	5,000 円/1 課目	6 課目	30,000 円/課程
アドバンスト課程技術課目	5,000 円/1 単位	6 単位	30,000 円/課程
付帯資格	5,000 円/1 単位	9 単位	45,000 円/課程

※ベーシック課程・技術課目のみ受験(知識課目免除)者は15,000 円/1日間

※アドバンスト課程・技術課目の異種目受験の場合は指導論免除のため25,000 円/課程

2. テキスト代：各課程必須のテキスト最新版を購入する事

テキスト	単価	テキストが必須となる課程
JSPA・SRP テキストブック	2,750 円(一般価格)	ベーシック課程
JSPA・指導者検定会テキストブック	2,750 円(一般価格)	ベーシック課程、アドバンスト課程

3. 事前講習会：受講義務は無いが協会推奨

各課程の事前講習会	15,000 円/日	主催は公認スクール、講習担当は各課程の検定員資格者とし、講習内容は主催者及び担当者に一任する
-----------	------------	--

※但し、レンタル関連料金は含まない

■使用艇に関する事

検定で使用する艇の適合種目は以下とする

1. 全艇種共通
現在過去問わず市販されている
2. シーカヤック
 - ① バウ、スターンにキールラインがある
 - ② バウ、スターンに水密隔壁がある
 - ③ デッキラインが装着されている
 - ④ スプレーカバーをつけることを前提としている
 - ⑤ ハードハルタイプ
 - ⑥ **ラダー、スケグの使用は認めない**
3. シットオントップカヤック
 - ① オープンデッキのカヤックである
 - ② **ラダー、スケグの使用は認めない ※1**
4. リバーカヤック
 - ① バウ、スターンには目立ったキールは存在しない
 - ② ボトム形状はラウンドかフラットタイプ
 - ③ スプレーカバーを付けることを前提としている
 - ④ ハードハルタイプ
 - ⑤ 水密隔壁がないタイプは充満したフーローテーションバッグを装着する
 - ⑥ **ラダー、スケグの使用は認めない**
5. レクリエーションカヤック
 - ① クローズドデッキタイプのカヤック
 - ② 上記2～4に当てはまらない
 - ③ **ラダー、スケグ等の使用は認めない ※1**
 - ④ 水密隔壁がないタイプは充満したフーローテーションバッグを装着する
6. オープンカヌー
 - ① ハードハルタイプのタンデムオープンデッキカヌー
 - ② アウトリガー、ラダー、スケグ等の使用は認めない
7. SUP/スタンドアップパドルボード
 - ① リーシュを装着できるタイプとする
 - ② インフレータブルのタイプは十分な空気圧を得られるタイプとする
 - ③ 救命補助具（膨張式タイプは不可）を装着すること

※1 回転性の良いカヤックの推進性能を上げるために標準装備されているフィン（スケグと記載されているものもある）の使用は、検定期間中同一の使用方法であれば装着したままでの検定受験でかまわない。（担当検定員に要問合せ）

■ベーシック課程(6単位):シーカヤック【SK】、シットオントップカヤック【SOT】、レクリエーションカヤック【REC】、リバーカヤック【RK】、オープンカヌー【OC】、SUP/スタンドアップパドルボード【SUP】

安全な指導をするに当たり、静水フィールドにおける必要かつ最低限の知識と技術を身につけているかを評価する課程。

1. 課目と内容

課目		課題	
知識	1) 総論	JSPA 活動について (定款、規程集、各種ガイドライン) リスクマネジメント概要 パドルスポーツ活動概要	※知識課目、受験免除条件については下記参照
	2) 安全	パドルスポーツ活動における安全管理 パドルスポーツ活動特有の傷病と応急処置 ※心肺蘇生法講習修了者を対象とした内容	
	3) パドルスポーツの基礎知識	用具の基礎知識 フィールドの特性と潜む危険要素 技術分析と方法論	
技術	4) 漕艇技術	静水における基本的な艇操作 ※「漕艇技術・課目詳細内容」を参照	
	5) 指導技術	受験者同士による模擬講習形式で実施 ※「指導技術(模擬講習)・課題詳細内容」を参照	
	6) 安全技術	JSPA・SRP に準じた内容 ※教養の「安全」、「パドルスポーツの基礎知識」講習と併せて「SRP 講習修了」と同程度の内容	

※以下の条件のいずれかを満たす者は知識課目が免除できる

- 1、JSPA 公認スクールに一般会員として所属している
- 2、ベーシック課程異種目受験合格、もしくはアドバンストインストラクター受験合格時から2年後の期末までの受験

●判定の目安

★知識課目 1)-3): 90 分程度の講義受講後、制限時間 30 分のペーパーテスト実施

・基本的な知識を身につけているか

★技術課目

4) 漕艇技術: 「漕艇技術・課目詳細内容」を参照

5) 指導技術: 「指導技術(模擬講習)・課題詳細内容」を参照

6) 安全技術: 「安全技術・課題詳細内容」を参照

2. 評価と認定

担当検定員が各課目毎に 100 点満点で採点する。

「知識」課目は、全て 75 点以上の時に 5 段階評価で「A」以上とする。

「技術」課目は、各課目の採点結果を元に 5 段階評価をする。

「知識」「技術」とともに「A」以上の時、ベーシック課程・6 単位を認定する。

尚、認定可否に関わらず、ベーシック課程を修了したものは、「JSPA・SRP 講習」修了者として認定される。

1-1) カヤック種目:シーカヤック【SK】、リバーカヤック【RK】、レクリエーションカヤック【REC】、シットオントップカヤック【SOT】

課目	課題
コンビネーション	目標地点に向かって、前進、停止、出発地点の方向へ後進する ・50m程度の距離で1回実施(後進の距離は短めとする) ・課題を達成するための技法(スキル)は問わない
スピン	停止状態から、フォワードとリバースのスイープストロークを使って、スムーズな定置回転をする(左右各2回転、艇種によっては1回転)

1-2) オープンカヌー種目:【OC】

課目	課題
コンビネーション	目標地点に向かって、前進、停止、スピン(180度回転)し、出発地点の方向へ再度前進、停止、スピン(逆180度回転)する ・50m程度の距離で1回実施・課題を達成するための技法(スキル)は問わない
サイドスリップ	停止状態から、左右各方向へサイドスリップする ・各方向へ5m程度の移動を1回実施 ・課題を達成するための技法(スキル)は問わない

1-3) SUP/スタンドアップパドルボード種目:【SUP】

課目	課題
前進	出発地点から目標地点までの往復。ターンは問わない ・30m程度の距離で1回実施
スピン	・ボードセンターでパラレルスタンスの状態でもフォワードとリバースのスイープストロークを使ってスムーズな定置回転をする(360°左右各1回転) ・停止状態からサーフスタンスにて定置回転をする(360°どちらか1回転)

●判定の目安:カヤック、オープンカヌー、SUP種目共通

- ・課題を達成しているか
- ・各々の技術の目的と効果を理解しているか
- ・一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
- ・確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
- ・全体の安定感(コントロール、バランス、スムーズさ)が保たれているか
- ・前進に関してはスピード感があるか
- ・【SUP】サーフスタンスでのスピンは重心位置を的確に移動しているか

▼指導技術(模擬講習)・課題詳細内容:全種目共通

課題	実施方法
PFD 装着	受験者同士による模擬講習実習(ワークショップ形式) ・左記3課題のうち1課題を担当 ・模擬講習対象はカヌーが初めての初心者とする
乗艇下艇	
陸上パドリング	

●判定の目安:共通項目

・基本的な内容を理解しているか ・安全におこなっているか ・どのように伝えているか

※SUP では『PFD 装着』にリーシュ装着、『陸上パドリング』には持ち替え方も含める

▼安全技術・課題詳細内容:全種目共通

課題
1) 検定種目(艇種)の特性に関して ・艇の特徴と理解 ・艇の特徴とフィールドからの影響
2) レスキュー ・アシストレスキュー:落水者の再乗艇もしくは安全を確保した岸までの牽引レスキュー ・セルフレスキュー:再乗艇や岸までの道具を確保したスイミング
3) 活動フィールドの考察 ・活動フィールドのリスクの洗い出し ・活動フィールドのリスクへの対応

●判定の目安

・基本的な内容を理解し、安全におこなっているか

・レスキューでは、使用したギアで効果的なやり方を理解し、実践できる技術を習得しているか

■アドバンスト課程・知識課目（全6単位）：全種目共通

安全な指導をするに当たり、それに関わる必要とされる指導者としての知識を最低限身につけているかを評価する課程。

1. 課目と内容：各課目1単位：合計6単位

課目	内容
総論	JSPA 活動について ・目的とそのシステム(定款、規定集、各種ガイドライン) ・資格認定制度 ・公認スクール ・協会共通プログラム ・インストラクター/ガイド活動 リスクマネジメント概要 ※総論受験免除条件については下記参照
ギア	パドルスポーツ用具の基礎知識 ・道具の形状による特徴 ・適切な用具の選択
フィールド	フィールドの特性と潜む危険要素 ・水の特性 ・フィールドの種類と危険要素 ・気象 ・活動エリアの把握
技術論	技術分析と方法論 ・パドルスポーツ技術の特徴 ・技術分析の考察
救急法	パドルスポーツ活動特有の応急手当 ・可能性のある負傷・症例と対策 救命処置(CPR&AED)方法の確認と対策 ファーストエイドキット ガイドやインストラクターとしての救急法に対する心構え ※心肺蘇生法講習修了者を対象とした内容
セーフティ	パドルスポーツ活動における安全管理 ・パドルスポーツ活動に潜むリスクの認識 ・プランニングと実践における判断 ・レスキューの概念と方法例 ・事件事例について

※以下の条件を満たす者は総論受験が免除できる

- ・ベーシック資格取得時から2年後の期末までの受験

2. 判定の目安

90分程度の講義受講後、制限時間30分のペーパーテスト実施

・パドリングの基本的知識や考え方を身につけているか

※講義内容は基本的知識を身につけていることを前提に、パドルスポーツシーン特有な事柄について進められる。テキストの内容をピックアップして講義は進めていくので、熟読し事前に一般的な知識を得ておくことが望ましい。

3. 評価と単位認定

担当検定員が課目毎に100点満点で採点し、75点以上で該当課目の単位を認定する。

(一社)日本セーフティパドリング協会 _____ 指導者検定会・課目ガイドライン・2023年版
 ■アドバンスト課程・技術課目(6単位)：シーカヤック【SK】、リバーカヤック【RK】、シット
 トオントップカヤック【SOT】レクリエーションカヤック【REC】、オープンカヌー【OC】、
 SUP/スタンドアップパドルボード【SUP】

安全な指導をするに当たり、静水フィールドにおいて基本的な技術を理解し実践しているか、基礎的な指導技量やそれに伴う知識を身に付けているかを評価する課程。

1. 課目と内容

課目		課題	
漕艇技術	1-1)シーカヤック	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「漕艇技術・課目詳細内容 1-1)シーカヤック」種目を参照	
	1-2)シットオントップカヤック	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「漕艇技術・課目詳細内容 1-1)シットオントップカヤック種目」を参照	
	1-3)レクリエーションカヤック	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「漕艇技術・課目詳細内容 1-1)レクリエーションカヤック種目」を参照	
	1-4)リバーカヤック	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「漕艇技術・課目詳細内容 1-1)リバーカヤック種目」を参照	
	1-5)オープンカヌー	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「漕艇技術・課目詳細内容 1-2)オープンカヌー種目」を参照	
	1-6)SUP	静水において基本的な艇操作を理解し実践しているか 「漕艇技術・課目詳細内容 1-3)SUP種目」を参照	
指導技術	2)指導論	インストラクターの役割と指導方法論 ・インストラクターと参加者 ・コミュニケーション ・技術指導の基本的流れ	※アドバンストインストラクター 異種目受験の場合は受験免除(1 単位分)
	3)模擬講習	ワークショップを取り入れながら、模擬講習形式の検定 ・動画教材を利用 ・対象は初級者、静水でのパドリング 技量の絶対評価の実習 ・パドリングテスト ・技量の採点方法	

●判定の目安

★漕艇技術：静水フィールドでの艇操作技術の評価

1-1)シーカヤック：「漕艇技術・課目詳細内容 1-1カヤック種目」を参照

1-2)シットオントップカヤック：

「漕艇技術・課目詳細内容 1-1カヤック種目」を参照

1-3)レクリエーションカヤック：

「漕艇技術・課目詳細内容 1-1カヤック種目」を参照

1-4)リバーカヤック：「漕艇技術・課目詳細内容 1-1カヤック種目」を参照

1-5)オープンカヌー：「漕艇技術・課目詳細内容 1-2オープンカヌー種目」を参照

1-6)SUP：「漕艇技術・課目詳細内容 1-3SUP種目」を参照

★指導技術

2) 指導論：90分程度の講義受講後、30分程度のペーパーテスト実施。

- 指導法に関してどれほど考察しているか
- 75点以上で該当課目の単位を認定する。

3) 模擬講習

- 技術をどのように観察し、分析し、評価したのか
- 改善するためにどのように（適切に、分かりやすく）アドバイスしたのか
- どのようなコミュニケーションがなされたか

2. 評価と単位認定

ペーパーテストは担当検定員が、それ以外は2名以上の検定員が、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「漕艇技術」「指導技術」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時、アドバンスト課程技術課目・6単位を認定する。

▼アドバンスト課程・技術課目：漕艇技術・課目詳細内容

1-1)カヤック種目：シーカヤック【SK】、シットオントップカヤック【SOT】

レクリエーションカヤック【REC】、リバーカヤック【RK】

課目	課題	要求される主たるスキル	
基礎技術	1) フォワード	目標地点に向かって直線的に前進する ・25～50m程度の距離を1回実施	フォワード
	2) バックワード	目標地点に向かって直線的に後進する ・25～50m程度の距離を1回実施	リバース、リバース・スウィープ
	3) サイドスリップ	左右各横方向にスリップする ・ドローとスカーリングで各左右5m程度移動	ドロー スカーリング
	4) スピン	停止状態から、スムーズな定置回転をする ・左右各2回転、艇種によっては1回転 ・RKはフラット、SKは適切なリーニングを行う	スウィープ&スターン ドロー+リバース・スウィープ
コンビネーション	5) ターン 直進から、要求するスキルを使ってターンをし、再び直進をする ・左右各2回実施 ・艇種による回し込む角度は以下に定める 【SK】 90度程度 【SOT】 90or180度程度 【REC】 90or180度程度 ※【SOT】【REC】は艇の回転性能によって検定員が判断する 【RK】 180度程度	【SK】 スウィープ+ローブレイスターン 【SOT】【REC】 スウィープ、リバーススウィープ、バウドロー、バウラダー、ローブレイス 【RK】 (バウドロー、バウラダー)+効果的な内傾	
リカバリー	6) ブレイス 艇を傾けてバランスを崩した状態から、パドリングできる元の状態に復元する ・45度以上艇を傾け、左右各2回実施	ローブレイス or ハイブレイス	
レスキュー	7-1) セルフレスキュー 『ロール』	完沈状態からパドリングできる元の状態に復元する ・左右どちらでも構わない ・フルロールで連続2回実施 ・ロングロールをおこなう場合は、持ち替えていない状態で沈すること	ロール(技法は問わない)
	7-2) セルフレスキュー 『再乗艇』	足の付かない水深において、沈脱状態からパドリングができる状態への復元	自力再乗艇、道具の使用も構わない
	※セルフレスキューは上記いずれかを選択		
	8) アシストレスキュー	自身及び漂流者の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を復元し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施	TXレスキュー、Tレスキュー

●判定の目安

★殆どの課目に共通する基本項目

- ・課題を達成しているか
 - ・各々の技術の目的と効果を理解しているか
 - ・一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
 - ・確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
 - ・全体の安定感（コントロール、バランス、スムーズさ）が保たれているか

1) フォワード

- ・ローテーション運動しているか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・スピードがあり、リズムカルか

2) バックワード

- ・ローテーション運動しているか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・スピードがあり、リズムカルか

3) サイドスリップ

- ・スムーズに横方向へ移動したか
- ・方向安定性が保たれているか
- ・パドルシャフトがしっかり立ち、十分な量の水をとらえているか

4) スピン

- ・艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
- ・ローテーション運動を含めて、各ストロークが有効に機能しているか
- ・【SK】回転に効果的なリーニングをしているか
- ・【SOT】 【REC】使用艇にとって有効なリーニングをしているか
- ・【RK】艇をフラットに保ち、その場に留まっているか

5) ターン

- ・艇種の性能に合わせた効果的なボートコントロールとストロークとの調和が保たれ、有効に機能しているか
- ・ターン後、艇を速やかに前進させているか
- ・【SK】キールを外す操作がされているか
- ・【SK】スウィープでターンのきっかけを作っているか
- ・【SOT】 【REC】 スピン（定置回転）との違いを明確に示しているか
- ・【RK】適切な先行動作がなされているか

6) ブレイス

- ・艇の傾け角度は十分か
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

7-1) ロール

- ・完沈状態になったか
- ・復元後はパドリングできる状態になっているか
- ・効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- ・身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか
- ・的確な状況判断がなされているか（ロール失敗時の対応）

7-2) 再乗艇

- ・復元後はパドリングできる状態になっているか
- ・速やかに、スムーズに再乗艇をしたか
- ・道具を使用した場合は、適切なタイミングで適切な使用方法をおこなったか

8) アシストレスキュー

- ・自身と漂流者の安全確保、漂流者に対して適切なアドバイスとコミュニケーションをしているか
- ・適切な箇所から持ち上げ、スムーズな排水をしているか
- ・安定した状態で、スムーズに漂流者を再乗艇させているか

1-2) オープンカヌー種目【OC】

課目	課題	要求される主たるスキル	
基礎技術	1) フォワード	目標地点に向かって直線的に前進する ・25～50m程度の距離を1回実施	フォワード+スターンプライ、Jストローク
	2) バックワード	目標地点に向かって直線的に後進する ・25～50m程度の距離を1回実施 ・方向修正の方法は問わない	リバース（リバース・スウィープ）+クロスストローク、リバース+バウプライ
	3) サイドスリップ	オンサイド方向、オフサイド方向にスリップする ・いずれかのスキルで、各方向5m程度移動	【オンサイド方向】 ドロ、スカーリング 【オフサイド方向】 クロスドロ、クロススカーリング、サイドプライ、プッシュスカーリング（スカーリングプライ）
	4) スピン	停止状態から、その場で素早く回転する ・オンサイド方向、オフサイド方向各2回転程度	【オンサイド方向】 リバース・スウィープ+バウドロ、BOXストローク 【オフサイド方向】 スウィープ+クロスバウドロ
コンピネーション	5) ターン	直進から、要求するスキルを使ってターンをし、再び直進をする ・左右各2回実施 ・180度程度回し込む	【オンサイド方向の旋回】 バウドロ、スターンプライ 【オフサイド方向の旋回】 クロスバウドロ、スウィープ、バウジャム
リカバリ	6) ブレイス	艇を傾けてバランスを崩した状態から、パドリングできる元の状態に復元する ・45度以上艇を傾け、オンサイド側2回実施	ローブレイス
レスキュー	7) セルフレスキュー	足の付かない水深において、沈脱状態からパドリングができる状態への復元	自力再乗艇、道具の使用も構わない
	8) アシストレスキュー	自身及び漂流者の安全確保を図りながら、沈した状態の他艇を排水し、漂流者を再乗艇させる ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施	TXレスキュー Iレスキュー 等

●判定の目安

★殆どの課目に共通する基本項目

- 課題を達成しているか
- 各々の技術の目的と効果を理解しているか
- 一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
- 確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
- 全体の安定感（コントロール、バランス、スムーズさ）が保たれているか

1) フォワード

- ローテーション運動しているか
- 方向安定性が保たれているか
- スピードがあり、リズムカルか

2) バックワード

- ローテーション運動しているか
- 方向安定性が保たれているか
- スピードがあり、リズムカルか

3) サイドスリップ

- スムーズに横方向へ移動したか
- 方向安定性が保たれているか
- パドルシャフトがしっかり立ち、十分な量の水をとらえているか

4) スピン

- 艇の回転が止まらずスムーズに回転しているか
- 各ストロークが有効に機能しているか
- 回転に効果的なリーニングをしているか

5) ターン

- 効果的なリーニングとストロークとの調和が保たれ、有効に機能しているか
- ターン後、艇を速やかに前進させているか
- 適切な先行動作がなされているか

6) ブレイス

- 艇の傾け角度は十分か
- 効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- 身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

7) セルフレスキュー

- 復元後はパドリングができる状態になっているか
- 速やかに、スムーズに再乗艇したか
- 道具を使用した場合は、適切なタイミングで適切な使用方法をおこなったか

8) アシストレスキュー

- 漂流者と自身の安全確保、漂流者に対して適切なアドバイスとコミュニケーションをしているか
- バウから持ち上げ、スムーズな排水をしているか
- 安定した状態で、スムーズに漂流者を再乗艇させているか

1-3) SUP/スタンドアップパドルボード種目【SUP】

課目	課題	要求される主たるスキル
基礎技術	1) フォワード / パラレルスタンス 目標地点に向かって直線的に前進する ・30m程度の距離を1回実施	フォワード、スイッチパドル
	2) フォワード/サーフスタンス 目標地点に向かって直線的に前進する ・30m程度の距離を1回実施 ・スイッチパドルはおこなわない	フォワード、ノーズドロー、テールプライ
	3) スピン/パラレルスタンス 停止状態から、その場で素早く回転する ・左右各1回転程度	スウィープ、リバーススウィープ、スイッチパドル
	4) スピン/サーフスタンス 停止状態から、その場で素早く回転する ・フロントサイド方向、バックサイド方向各1回転程度 ・ステップバックによるサーフスタンスは、レギュラーまたはグーフィーに固定する	【フロントサイド方向】 ステップバック+リバーススウィープ 【バックサイド方向】 ステップバック+スウィープ
コンビネーション	5) ターン/パラレルスタンス パレスタンスでの直進から、要求するスキルを使ってターンをし、再びパラレルスタンスで直進する ・オンサイド方向、オフサイド方向各1回ずつ実施 ・ターンは180度程度回し込む ・ターン時スイッチパドルはおこなわない	【オンサイド方向】 ノーズドロー、テールプライ 【オフサイド方向】 クロスノーズドロー、スウィープ
	6) ターン/サーフスタンス パレスタンスでの直進から、要求するスキルを使ってターンをし、再びパラレルスタンスで直進する ・レギュラーとグーフィー各スタンスでのターンを1回ずつ実施 ・ターンは180度程度回し込む	ステップバック(レギュラー、グーフィー)、スウィープ
リカバリ	7) ブレイス(パラレルスタンス、サーフスタンス) 艇を傾けてバランスを崩した状態から、パドルリングできる元の状態に復元する ・パラレルスタンス左右各2回実施 ・サーフスタンスバックサイド2回実施	ローブレイス
レスキュー	8) セルフレスキュー 落水しボードがひっくり返った状態から、復元し再乗艇する	自力再乗艇
	9) アシストレスキュー 自身及び漂流者の安全確保を図りながら、漂流者を再乗艇させ、牽引する ・漂流者の足がつかない深さで、1回実施 ・漂流者は漕艇不能とする ・道具の使用は問わない	

●判定の目安

★殆どの課目に共通する基本項目

- 課題を達成しているか
- 各々の技術の目的と効果を理解しているか
- 一般的に、無理なく効率の良い身体運動をしているか
- 確実な水のキャッチ、正確なストローク、効率の良いフィニッシュがなされているか
- 全体の安定感（コントロール、バランス、スムーズさ）が保たれているか

1) フォワード/パラレルスタンス

- ローテーション運動しているか
- 方向安定性が保たれているか
- スピードがあり、リズムカルか

2) フォワード/サーフスタンス

- ローテーション運動しているか
- 方向安定性が保たれているか
- スピードがあり、リズムカルか

3) スピン/パラレルスタンス

- ボードの回転が止まらずスムーズに回転しているか
- 各ストロークが有効に機能しているか
- ボード上でバランスが崩れていないか

4) スピン/サーフスタンス

- ボードの回転が止まらずスムーズに回転しているか
- 各ストロークが有効に機能しているか
- ボード上でバランスが崩れていないか

5) ターン/パラレルスタンス

- スムーズな先行動作がなされているか
- 各ストロークが有効に機能しているか
- ターン後にボードを速やかに前進させているか

6) ターン/サーフスタンス

- スムーズなステップバック操作が行われているか
- 各ストロークが有効に機能しているか
- ターン後にボードを速やかに前進させているか

7) ブレイス

- 効果的なブレイスが使われ、スムーズに素早く復元されているか
- 身体（特に肩）に無理のないスキルを使っているか

8) セルフレスキュー

- 周囲の安全を確認し、スムーズにボードを復元できたか
- スムーズに速やかに再乗艇したか

8) アシストレスキュー

- 自身と漂流者の安全確保、漂流者に対して適切なアドバイスとコミュニケーションをしているか
- 安定した状態でスムーズに漂流者を牽引しているか
- 道具を使用した場合は、適切なタイミングで適切な使用方法をおこなったか

■ガイド課程（付帯資格）（9単位）：アドバンスト・リバーガイド

安全にフィールドをガイドする上で、必要な指導や技術、知識を身に着け実践しているか。また、それらを行なうために最大限のセーフティ・ジャッジメントをしようと考え行動しているかを評価する課程

1. 課目と内容

課目		課題
漕艇技術	1) コンビネーション	クラス2～3程度の瀬において、フェリーグライド、エディターン、ピールアウトを含めた、指定された4～6地点を経由し、目標地点へ移動する ・前漕をおこなった後に制限時間内であれば何回でも実施可能 ・流水における総合的なパドリング力と修正力、応用力を評価する
	セルフレスキュー	2) スイミング クラス2程度の流水において、指定されたエディから、指定されたエディまでのスイミング 3) ロール/再乗艇 本流上で完沈状態から、パドリング可能な状態へ復元させる ・カヤック：ロール ・SUP：その場で再乗艇 ・カヌー：速やかな岸への着岸
安全技術	アシストレスキュー	4) ボートレスキュー クラス2程度の瀬を漂流してきた要救助者とそのギアを指定エリアまでに回収する ・道具の使用は構わない ・補助者はつかない 5) ギア回収 ブローチしたギアの回収 ・補助者を1名つけることができる ・道具の使用は構わない
	6) 講義：応用フィールドとリスクマネジメント	流水フィールド ・川の特徴 ・気象 ・情報収集 ・事事故例 ・河川法と自然公園法 ツアー計画と実践 ・スカウティングとルートファインディング ・情報収集とプランニング ・川のグレードとゲストのスキルレベル
ガイド・指導技術	7) 模擬ツアー	その川を初めて訪れるメンバーに対して、安全に川を下ってもらうガイディングをする。 ・メンバーの技術レベルやフィールド状況等の設定は事前に説明する ・ガイディング後は受験生同士でフィードバックをおこなう
	8) 模擬講習	各受験生がそれぞれ異なる講習や説明を4～6項目おこない、各項目後に受験生同士によるフィードバックをおこなう 初めてその項目をおこなう方に対して、3～10分程度の講習をする ・項目を記載した課題集は事前に配布する
	9) 基本知識説明	項目に対して、その特徴や注意点、使用方法等をわかりやすくまとめて、最大5分程度で説明をする ・道具の使用は可能 ・項目を記載した課題集は事前に配布する

応用フィールド研修

10) その他	知っておいて欲しいスキルやテクニックの確認(研修) ・ 普段使用しない艇種に関する特徴や注意点 ・ 応用フィールドの楽しみ方 ・ ロープワーク
---------	--

●判定の目安

★漕艇技術：実践するフィールドで艇を操作するための、基本技術の応用力を評価

1) コンビネーション

- 課題を達成しているか
- 自分の動きを修正し、現場に合わせたパドリングをおこなっているか
- 積極的に流れを読み、利用し、その状況に適したスキルを使っているか
- 自分の意志でコントロールしているか
- 全体をとおして安定感があり、スムーズな動きをしているか

★安全技術：実践するフィールドでの安全に関わる知識と技術、判断力を評価

2) スイミング

- 課題を達成しているか
- 流れを読み、安全に身体に無理なく着岸できたか

3) ロール/再乗艇

- 身体に無理のないスキルを使っているか
- すぐに活動できる状態になっているか
- 安定的に確実にロールができているか (ロール)
- 効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか (ロール)
- 道具を紛失することなく速やかに行動しているか (再乗艇)
- 周りの状況を常に確認し行動しているか

4) ボートレスキュー

- 状況判断が的確になされたか
- 安全配慮がなされているか
- 要救助者への的確な指示とケアがなされていたか
- レスキューをする上でのボートコントロールがされていたか
- 道具を使用した場合は、的確なタイミングで的確な使用方法をおこなったか

5) ギア回収

- 状況判断が的確になされたか
- 安全配慮がなされているか
- 補助者を利用した場合、的確な指示の下、安全に対する配慮を怠らなかったか
- 道具を使用した場合は、的確なタイミングで的確な使用方法をおこなったか

6) 応用フィールドとリスクマネジメント

：120分程度の講義受講後、30分のペーパーテスト実施

- 必要な知識を身につけているか

★指導・ガイド技術：参加者とのコミュニケーションを含めたわかりやすく確かな知識や技術に基づいた指導やガイディングを評価

殆どの課目に共通する基本項目

- 自分のガイドや指導特徴を理解し修正する能力があるか
- 他者を適切な言葉や表現で評価することができるか
- 安全配慮がなされているか
- どのようなコミュニケーションがなされたか

7) 模擬ツアー

- 安全を十分に配慮したツアーをおこなっているか
- 現場での状況判断が的確になされたか

- メンバーに対してわかりやすい説明と誘導をしているか

8) 模擬講習

- 初めておこなう方に対して、わかりやすい講習をしているか
- 道具を使用した場合は、的確なタイミングで的確な使用方法をおこなったか
- 現場での状況判断が的確になされたか

9) 基本知識説明

- 必要な情報を整理し、わかりやすい説明をしているか
- 道具を使用した場合は、的確なタイミングで的確な使用方法をおこなったか

10) その他

- 正しいロープワークとその応用
- 普段使用しない艇種の動きを積極的に理解し、今後に活かそうとしているか
- 基礎課程で得た漕艇技術のフィールドでの活用方法

● 使用道具について

- SUPは十分な浮力を確保できるインフレーターブルSUP、フィンに破損しづらいもの、クイックリリース機能がついているウエスト装着タイプのコイルドリーシュを使用する
- 浮力のある PFD、ヘルメット、スローロープ、トーライン、ファーストエイドキット、普段使用するセーフティギアやリペア道具等は持参する

2. 評価と認定

ペーパーテストは担当検定員が、それ以外は2名以上の検定員が、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「漕艇技術」「安全技術」「ガイド・指導技術」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時該当種目の付帯資格・9単位を認定する。

■ガイド課程 (付帯資格) (9単位) : アドバンスト・シーガイド

安全にフィールドをガイドする上で、必要な指導や技術、知識を身に着け実践しているか。また、それらを行なうために最大限のセーフティ・ジャッジメントをしようと考え行動しているかを評価する課程。

1. 課目と内容

課目		課題
漕艇技術	1) ボートコントロール	ラフウォーターやシビアなフィールドでのパドリング <ul style="list-style-type: none"> ・前漕をおこなった後に制限時間内であれば何回でも実施可能 ・基礎課程の漕艇種目を応用した総合的なパドリング力と修正力、応用力を評価する ・使用フィールドはサーフゾーンでの上陸や出艇、ロックガーデンでの速やかな移動、潮流でのボートコントロール
	セルフレスキュー	2) ロール/再乗艇 <ul style="list-style-type: none"> ・ラフウォーターで完沈状態から、パドリング可能な状態へ復元させる ・カヤック：ロール ・SUP：その場で再乗艇 ・シットオントップカヤック：その場での再乗艇
安全技術	アシストレスキュー	3) ボートレスキュー <ul style="list-style-type: none"> ・ラフウォーターで沈脱した要救助者とそのギアを確保し再乗艇させる ・道具の使用は構わない ・補助者はつかない
		4) 牽引 <ul style="list-style-type: none"> ・ラフウォーターで漕艇不能なゲストを指定された地点まで牽引する ・道具の使用は構わない ・補助者はつかない
	5) ツーリング計画	ツーリングの計画 <ul style="list-style-type: none"> ・指定されたエリア内での1日ツアーの計画と発表 ・海図や潮汐表 ・情報収集とプランニング
	6) 講義：応用フィールドとリスクマネジメント	海洋フィールド <ul style="list-style-type: none"> ・海の特徴 ・気象 ・海上交通法規 ・海中公園や自然公園法 ・リスクマネジメント ・リスク予見と判断
ガイド・指導技術	7) 模擬ツアー	そのフィールドを初めて訪れるメンバーに対して、安全にツーリングをするためのガイディングをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの技術レベルやフィールド状況等の設定は事前に説明する ・ガイディング後は受験生同士でフィードバックをおこなう
	8) 模擬講習	各受験生がそれぞれ異なる講習や説明を4~6項目おこなない、各項目後に受験生同士によりフィードバックをおこなう 初めてその項目をおこなう方に対して、3~10分程度の講習をする <ul style="list-style-type: none"> ・項目を記載した課題集は事前に配布する、
	9) 基本知識説明	項目に対して、その特徴や注意点、使用方法等をわかりやすくまとめて、最大5分程度で説明をする <ul style="list-style-type: none"> ・道具の使用は可能 ・項目を記載した課題集は事前に配布する

応用フィールド研修

10) その他	知っておいて欲しいスキルやテクニックの確認(研修) <ul style="list-style-type: none">・ 普段使用しない艇種に関する特徴や注意点・ 応用フィールドの楽しみ方・ ロープワーク
---------	---

●判定の目安

★漕艇技術：実践するフィールドで艇を操作するための、基本技術の応用力を評価

1) ボートコントロール

- 課題を達成しているか
- 自分の動きを修正し、現場に合わせたパドリングをおこなっているか
- 自分の意志でコントロールしているか
- 全体をとおして安定感があり、スムーズな動きをしているか

★安全技術：実践するフィールドでの安全に関わる知識と技術、判断力を評価

2) ロール/再乗艇

- 身体に無理のないスキルを使っているか
- すぐに活動できる状態になっているか
- 安定的に確実にロールができているか (ロール)
- 効果的なヒップスナップが使われ、スムーズに素早く復元されているか (ロール)
- 道具を紛失することなく速やかに行動しているか (再乗艇)
- 周りの状況を常に確認し行動しているか

3) ボートレスキュー

- 状況判断が的確になされたか
- 安全配慮がなされているか
- 要救助者への的確な指示とケアがなされていたか
- レスキューをする上でのボートコントロールがされていたか
- 道具を使用した場合は、的確なタイミングで的確な使用方法をおこなったか

4) 牽引

- 状況判断が的確になされたか
- 安全配慮がなされているか
- 要救助者への的確な指示とケアがなされていたか
- 道具を使用した場合は、的確なタイミングで的確な使用方法をおこなったか

5) ツーリング計画

- 無理のない安全に配慮された計画がたてられているか

6) 応用フィールドとリスクマネジメント

：120分程度の講義受講後、30分のペーパーテスト実施

- 必要な知識を身につけているか

★指導・ガイド技術：参加者とのコミュニケーションを含めたわかりやすく確かな知識や技術に基づいた指導やガイディングを評価

殆どの課目に共通する基本項目

- 自分のガイドや指導特徴を理解し修正する能力があるか
- 他者を適切な言葉や表現で評価することができるか
- 安全配慮がなされているか
- どのようなコミュニケーションがなされたか

6) 模擬ツアー

- 安全を十分に配慮したツアーをおこなっているか
- 現場での状況判断が的確になされたか
- メンバーに対してわかりやすい説明と誘導をしているか

7) 模擬講習

- 初めておこなう方に対して、わかりやすい講習をしているか
- 道具を使用した場合は、的確なタイミングで的確な使用方法をおこなったか
- 現場での状況判断が的確になされたか

8) 基本知識説明

- 必要な情報を整理し、わかりやすい説明をしているか
- 道具を使用した場合は、的確なタイミングで的確な使用方法をおこなったか

9) その他

- 正しいロープワークとその応用
- 普段使用しない艇種の動きを積極的に理解し、今後に活かそうとしているか
- 基礎課程で得た漕艇技術のフィールドでの活用方法

● 使用道具について

- ヘルメット、ビルジポンプ、パドルフロート、コンパス、トーライン、ファーストエイドキット、普段使用するセーフティギアやリペア道具等は持参する

2. 評価と認定

ペーパーテストは担当検定員が、それ以外は2名以上の検定員が、各課目毎に100点満点で採点し、それを元に「漕艇技術」「安全技術」「ガイド・指導技術」の各評価が、5段階評価で全てA以上の時該当種目の付帯資格・9単位を認定する。

■評価の主観的目安

★100点満点による点数評価

採点点数	主観的目安
90～	デモの道へトライしてみてもいいですか
80～	要求している基準は明らかにクリアしています
75～	要求している基準はクリアしています。今後も精進してください
70～	あと一歩です。意識を持って活動してください
～69	研修や経験をもっと積み重ねてください

★5段階による総合的評価

評価値	主観的目安
AAA	素晴らしいです。
AA	とても良いです。
A	良いです。今後も精進してください。
B	もう少しですね。
C	更なる研修を積み重ねてください。